

## 数学科学習指導案（略案）

日 時 令和8年1月20日（木）  
対 象 第2学年1、2組 72名  
① 基礎コース 12名  
② 標準コース 20名  
③ 発展コース 30名  
授業者 ① 教諭 山本 友紀  
② 教諭 染葉 仁博  
③ 主幹教諭 柴田 勇介  
会 場 ① 4階2年1組教室  
② 4階2年2組教室  
③ 6階図書室

1 単元名 6章「場合の数と確率」 『中学数学2』（日本文教出版）

2 単元の目標

- ・多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数を基にして得られる確率の必要性と意味を理解している。
- ・同様に確からしいことに着目し、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現することができる。
- ・場合の数を基にして得られる確率のよさを実感して粘り強く考え、不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、確率を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。

3 研究主題「主体的に学びに取り組む生徒の育成」の実現に向けて

【Bグループ：評価基準の提示を通して生徒に学習の見通しをもたせ、主体的に学ぶ姿勢を高める】

(1) 日常の学習活動の中で行っている工夫

習熟度別の全コースで共通のめあてを提示し、1単位時間に身に付けてほしい学習内容を明確にしている。小テストや課題、レポートに取り組ませる際には評価基準を明示している。めあてや評価基準を示し学習目標を明確にすることで、生徒は学習に取り組みやすくなり、主体的に学ぼうとする態度を養うことができると考える。

(2) 本時の工夫

全コースがグループで実験を行い、データ量を増やすことで信頼できる結果を得る。相対度数がリアルタイムに変動する様子を見ながら実験することで、収束する値が予想に近付くかを考え、主体的に取り組むことができると考える。授業後半のミニテストでは、「同様に確からしい」ことを踏まえて場合の数から確率を求めさせる。生徒に示す評価基準に「同様に確からしいかを根拠にして」を加え、本時の目標を明確化して、生徒に主体的な学びを促す。ミニテストの説明する問題では、書くことができず止まってしまう生徒がいることが予想される。基礎コース、標準コースでは授業者が個別にそれぞれの事象の起こりやすさを考えさせるよう促す言葉掛けをし、少しでも自分の力

で書けるよう指導する。また、基礎コースでは、ミニテストに取り組む前にも「同様に確からしい」ことの説明の流れで、出やすさを考えることが大切であることを全体で確認する。発展コースではミニテスト提出後に、それぞれの説明を3, 4人グループで伝え合う活動を取り入れ、より分かりやすい説明はどのようなものか考えさせる。

#### 4 本時（全8時間中の第2時）

##### （1）本時の目標

起こりうる場合が「同様に確からしい」かどうかに着目し、あることがらの確率について説明することができる。

##### （2）本時の展開（基礎コース） ※太字部分は各テーマに沿った工夫・手だて

時間	○学習活動等（生徒）	○指導・援助（教員） ◆評価<方法>
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「Today's Mission」で、前時のサイコロ実験の結果から、正四面体／正六面体（立方体）／正八面体／正十二面体／正二十面体の各サイコロについて、各目が出る割合（多数回試行で得られた確率）と、場合の数によって求められる確率がおおよそ等しいことを確認する。直方体サイコロは予想ができなかったこと、インチキサイコロが含まれていたことを確認する。</li> <li>○本時のめあてを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロイロノートで本時の学習内容を配信し、確認させる。</li> <li>○ロイロノートで配信した表計算ソフトで作成されたグラフを確認させる。</li> </ul>
<b>目標：2枚の10円玉を投げたとき、ア（2枚とも表）、イ（1枚は表・1枚は裏）、ウ（2枚とも裏）それぞれの確率を考える。</b>		
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人で予想する。</li> <li>○全体で予想を共有する。</li> <li>○2人グループで実験を行う。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人が10円玉を2枚投げ、もう1人が表計算ソフトに入力する</li> </ul> </li> <li>○全体で結果を共有し、相対度数か</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人で予想させ、ワークシートに記入させる。</li> <li>○数名を指名し予想を発表させ、その内容を板書する。</li> <li>○共同編集の表計算ソフト（全コース同一）に入力させる。</li> <li>○イの相対度数がア・ウの2倍になることを確認させ、その理由を考えさせる。</li> </ul>

	<p>らどの確率が適当かを確認する。</p> <p>○「同様に確からしい」とは何かを確認する。</p> <p>○ミニテストに取り組む。</p> <p>ミニテスト「赤玉2個、青玉3個、緑玉4個、全部で9個の玉がある。ここから1つを取り出すとき、赤玉を取り出す確率の求め方として正しいものを選びなさい。また、正しくないもののどの点が間違っているか説明しなさい。」</p>	<p>※ (表、裏)、(裏、表) は別の場合だが、どちらもイの場合と考えられ、ア、イの確率の2倍になっている。</p> <p>○ア・イ・ウの3つの場合では、イが最も起こりやすく同様に確からしくないため、1/3とならないことを確認させる。</p> <p>○樹形図を用いて起こりうる場合を板書し、樹形図からも確率を考えられることを確認させる。</p> <p>○ロイロノートで配信しているミニテストに取り組ませる。</p> <p>○ミニテストに取り組む前に、赤玉、青玉、緑玉それぞれの出やすさは同じか、など全体で考える時間を設け、同様に確からしい考える意識付けをする。</p> <p>○説明を書くことが難しい生徒には個別にどれが出やすいか、出やすさは同じかなどを質問しながら、考えを整理させる。また、説明は箇条書きや簡潔な言葉でよいことを伝える。</p> <p>◆思考・判断・表現&lt;ミニテスト&gt;</p> <p>評価基準を示し、取り組ませる。</p> <p>A：同様に確からしいことに着目して、正しい確率の求め方を選ぶことができ、正しくないものの間違っている点を説明できる。</p> <p>B：同様に確からしいことに着目して正しい確率の求め方を選ぶことができる。</p> <p>C：正しい確率の求め方を選ぶことができない。</p> <p>○生徒それぞれのタイミングでロイロノート提出箱に提出させる。授業者は適宜採点し返却する。生徒は、A評価が付くまで再提出できる。</p>
まとめ 5分	<p>○どの場合も「同様に確からしい」とき、場合の数によって確率を求められることを確認する。</p> <p>○振り返りシートに、本時に学習したこと・理解したこと・まだ分からぬことを記録する。</p>	

本時の展開（標準コース）

時間	○学習活動等（生徒）	○指導・援助（教員） ◆評価<方法>
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「Today's Mission」で、前時のサイコロ実験の結果から、正四面体／正六面体（立方体）／正八面体／正十二面体／正二十面体の各サイコロについて、各目が出る割合（多数回試行で得られた確率）と、場合の数によって求められる確率がおおよそ等しいことを確認する。直方体サイコロは予想ができなかったこと、インチキサイコロが含まれていたことを確認する。</li> <li>○本時のめあてを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロイロノートで本時の学習内容を配信し、確認させる。</li> <li>○ロイロノートで配信した表計算ソフトで作成されたグラフを確認させる。</li> <li>○ロイロノートで配信したカードで本時のめあてを確認させる。</li> </ul>
目標：2枚の10円玉を投げたとき、ア（2枚とも表）、イ（1枚は表・1枚は裏）、ウ（2枚とも裏）それぞれの確率を考える。		
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人で予想する。</li> <li>○全体で予想を共有する。</li> <li>○2人グループで実験を行う。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人が10円玉を2枚投げ、もう1人が表計算ソフトに入力する</li> </ul> </li> <li>○全体で結果を共有し、相対度数からどの確率が適当かを確認する。</li> <li>○樹形図を用いて起こりうる場合を書き出し、樹形図から確率を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人で予想させ、ワークシートに記入させる。</li> <li>○数名を指名し予想を発表させ、その内容を板書する。</li> <li>○共同編集の表計算ソフト（全コース同一）に入力させる。</li> <li>○イの相対度数がア・ウの2倍になることを確認させ、その理由を考えさせる。           <p>※（表、裏）、（裏、表）は別の場合だが、どちらもイの場合と考えられ、ア、イの確率の2倍になっている。</p> </li> <li>○ア・イ・ウの3つの場合では、イが最も起こりやすく同様に確からしくないため、1/3とならないことを確認させる。</li> <li>○樹形図を板書し、それぞれの場合の確率を確認する。</li> </ul>

	<p>○「同様に確からしい」とは何かを確認する。</p> <p>○ミニテストに取り組む。</p> <p>ミニテスト「赤玉2個、青玉3個、緑玉4個、全部で9個の玉がある。ここから1つを取り出すとき、赤玉を取り出す確率の求め方として正しいものを選びなさい。また、正しくないもののどの点が間違っているか説明しなさい。」</p>	<p>○ロイロノートで配信しているミニテストに取り組ませる。</p> <p>○個人で考える時間をとった後、近くの生徒と相談し、考えを整理する時間をとる。</p> <p>○説明を書くことが難しい生徒には個別にどれが出来やすいか、出やすさは同じかなどを質問しながら、考えを整理させる。</p> <p>◆思考・判断・表現&lt;ミニテスト&gt;</p> <p>評価基準を示し、取り組ませる。</p> <p>A：同様に確からしいことに着目して、正しい確率の求め方を選ぶことができ、正しくないものの間違っている点を説明できる。</p> <p>B：同様に確からしいことに着目して正しい確率の求め方を選ぶことができる。</p> <p>C：正しい確率の求め方を選ぶことができない。</p> <p>○生徒それぞれのタイミングでロイロノート提出箱に提出させる。授業者は適宜採点し返却する。生徒は、A評価が付くまで再提出できる。</p>
まとめ 5分	<p>○どの場合も「同様に確からしい」とき、場合の数によって確率を求められることを確認する。</p> <p>○振り返りシートに、本時に学習したこと・理解したこと・まだ分からぬことを記録する。</p>	

本時の展開（発展コース） ※太字部分は各テーマに沿った工夫・手だて

時間	○学習活動等（生徒）	○指導・援助（教員） ◆評価<方法>
導入 5分	<p>○「Today's Mission」で、前時のサイコロ実験の結果から、正四面体／正六面体（立方体）／正八面体／正十二面体／正二十面体の各サイコロについて、各目が出る割合（多数回試行で得られた確率）と、場合の数によって求められる確率がおおよそ等しいことを確認する。直方体サイコロは予想ができなかったこと、インチキ</p>	<p>○ロイロノートで本時の学習内容を配信し、確認させる。</p> <p>○ロイロノートで配信した表計算ソフトで作成されたグラフを確認させる。</p>

	<p>サイコロが含まれていたことを確認する。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p>	<p>○ロイロノートで配信したカードで本時のめあてを確認させる。</p>
展開 40分	<p><b>目標：</b>2枚の10円玉を投げたとき、ア（2枚とも表）、イ（1枚は表・1枚は裏）、ウ（2枚とも裏）それぞれの確率を考える。</p>	
	<p>○個人で予想する。</p> <p>○全体で予想を共有する。</p> <p>○2人グループで実験を行う。 ・1人が10円玉を2枚投げ、もう1人が表計算ソフトに入力する</p> <p>○全体で結果を共有し、相対度数からどの確率が適当かを確認する。 ・個人で考える。 ・ペアで考える。 ・全体で共有する。</p> <p>○樹形図を用いて起こりうる場合を書き出し、樹形図から確率を考える。</p> <p>○「同様に確からしい」とは何かを確認する。</p> <p>○ミニテストに取り組む。</p> <p>ミニテスト「赤玉2個、青玉3個、緑玉4個、全部で9個の玉がある。ここから1つを取り出すとき、赤玉を取り出す確率の求め方として正しいものを選びなさい。</p> <p>また、正しくないもののどの点が</p>	<p>○個人で予想させ、ワークシートに記入させる。</p> <p>○数名を指名し予想を発表させ、その内容を板書する。</p> <p>○共同編集の表計算ソフト（全コース同一）に入力させる。</p> <p>○イの相対度数がア・ウの2倍になることを確認させ、その理由を考えさせる。 ※（表、裏）、（裏、表）は別の場合だが、どちらもイの場合と考えられ、ア、イの確率の2倍になっている。</p> <p>○ア・イ・ウの3つの場合では、イが最も起こりやすく同様に確からしくないため、1/3とならないことを確認させる。</p> <p>○樹形図を板書し、それぞれの場合の確率を確認する。</p> <p>○ロイロノートで配信しているミニテストに取り組ませる。</p> <p>◆思考・判断・表現&lt;ミニテスト&gt; 評価基準を示し、取り組ませる。</p> <p>A：同様に確からしいことに着目して、正しい確率の求め方を選ぶことができ、正しくないものの間違っている点を説明できる。</p> <p>B：同様に確からしいことに着目して正しい確率の</p>

	間違っているか説明しなさい。」	<p>求め方を選ぶことができる。</p> <p>C：正しい確率の求め方を選ぶことができない。</p> <p>○生徒それぞれのタイミングでロイロノート提出箱に提出させる。授業者は適宜採点し返却する。生徒は、A評価が付くまで再提出できる。</p> <p>○ある程度の生徒が提出後、3、4人グループで説明を発表し合う時間をとり、より分かりやすい説明はどのようなものか考えさせる。</p>
まとめ 5分	<p>○どの場合も「同様に確からしい」とき、場合の数によって確率を求められることを確認する。</p> <p>○振り返りシートに、本時に学習したこと・理解したこと・まだ分からないことを記録する。</p>	

## 美術科学習指導案（略案）

日 時 令和8年1月20日（火）  
対 象 第2学年3組 36名  
授業者 教諭 橋本 花  
会 場 5階美術室

1 単元名 精密描写でそっくりな自分を描こう 『美術資料』（秀学社）

2 単元の目標

- 色彩などが感情にもたらす効果や、表情やしぐさ、人体の捉え方、構図や背景、遠近感などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。
- ルネサンスの美術作品を鑑賞し、精密描写することで、人物の表情を描いた繊細な表現への理解や作者の意図と創造的な工夫、美術を通した国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。
- 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に作品や美術文化などの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

3 研究主題「主体的に学びに取り組む生徒の育成」の実現に向けて

【Cグループ：生徒ができるようになったことを実感するための目標設定の工夫】

（1）日常の学習活動の中で行っている工夫

制作物の指導では、正解の描き方を教えるのではなく、誤りを指摘し、どのように改善すればよくなるかを考えさせている。ラフ画と完成図を見比べて振り返ることで、構想どおりの完成に近付いた実感をもたせている。過去の自分の絵と比較して完成度の向上を客観視することで自己肯定感を高め、主体的に学ぶ意欲につなげている。

（2）本時の工夫

元の作品と見比べてよいところに気付かせ、自己肯定感を高め、主体的に学ぶ意欲につなげる。

4 本時（全6時間中の第1時）

（1）本時の目標

- ルネサンスの美術について学習・鑑賞し、ルネサンス期の生活や美意識への理解を深める。
- 精密描写を通して鑑賞をさらに深め、グリッドごとに分けて模写する方法を身に付ける。

（2）本時の展開 ※太字部分は各テーマに沿った工夫・手だて

時間	○学習活動等（生徒）	○指導・援助（教員）	◆評価<方法>
導入 15分	<p>目標：ルネサンス美術の特徴を理解し、精密描写のグリッド技法を学ぼう。</p> <p>○プリントの穴埋めをしながら作品を鑑賞し、共通点や疑問を挙げる。</p> <p>○一人1台端末での調べ学習を通して作品への理解を深める。</p>	<p>○作品の要点を示し、資料集とプリントを照らし合わせて確認させる。</p>	

展開 25分	○精密描写に取り組む。	○精密描写の方法を全体で指導し、ずれている箇所がある生徒には個別に助言する。 ◆評価<作品>
まとめ 10分	○完成した作品と、プリントで隣に記載されている元の作品を見比べ、似ている部分やよくできたグリッドを確認して本日の活動を振り返る。 ○班の他の生徒と見比べ、より本物に近い模写を鑑賞し合う。	○よくできた点を確認させ、自己肯定感を高めさせる。完成に納得のいっていない生徒には、よく描けている部分を教員が見付けて価値付ける。 ○完成度の高い作品を提示し、より精密に模写する工夫に気付かせる。

## 音楽科学習指導案（略案）

日 時 令和8年1月20日（火）  
対 象 第2学年4組 36名  
授業者 主任教諭 近藤 彩子  
会 場 7階 第2音楽室

1 単元名 曲にふさわしい表現を工夫し、豊かな響きの合唱をしよう  
『中学生の音楽2・3上』（教育芸術社）

2 単元の目標

- ・歌詞の内容を理解し、他の声部を聴きながら、響きに溶け合った合唱にことができる。
- ・美しい響きの発声を目標とし、まとまりのある音色が出せるように工夫できる。
- ・合唱表現の多様さに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

3 研究主題「主体的に学びに取り組む生徒の育成」の実現に向けて

【Cグループ：生徒ができるようになったことを実感するための目標設定の工夫】

（1）日常の学習活動の中で行っている工夫

振り返りシートやワークシートで自己評価・振り返りを行い、次回の課題を自分で設定できるようにするとともに、パートごとに練習する時間を設けて生徒が自分たちで課題を見いだし、助け合って解決できるようにしている。

（2）本時の工夫

前時の課題を基に自分たちで目標を設定し、課題解決に向けて練習するとともに、授業の最後に本時でできるようになったことと課題を共有する。

4 本時（全4時間中の第2時）

（1）本時の目標

- ・歌詞の内容と旋律の特徴に着目し、思いや意図をもって創意工夫する。
- ・声部の役割を意識し、創意工夫したことを表現する。

（2）本時の展開 ※太字部分は各テーマに沿った工夫・手だて

時間	○学習活動等（生徒）	○指導・援助（教員） ◆評価<方法>
導入 10分	○発声練習を行う。 ○本時の目標を理解し、各パートで目標を決める。	○歌う姿勢や声の出し方に気を付けて歌うよう助言し、一人一人がしっかりと声を出すように働き掛ける。

目標：曲にふさわしい表現を工夫し、豊かな響きの合唱ができる。

展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前回の振り返りをする。</li> <li>・パートリーダーを中心に、前回の演奏についてよかつた点や改善点を発表し合い、成果と課題を確認する。</li> <li>○パート練習を行う。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・各パートで工夫した歌い方を発表し合い、それを試しながら、よりふさわしい歌い方を考える。</li> <li>・「聴き役」の生徒を決め、目指す表現ができているか、意見を出し合いながら練習する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時までの学習の成果を評価して意欲をもたせる</li> <li>と同時に、よりよい合唱の実現に必要な課題を確認させる。</li> <li>◆思考・判断・表現&lt;観察、演奏聴取&gt;</li> <li>歌詞の内容と曲想の変化を考えながら、感情を込めた表現の仕方を工夫している。</li> </ul>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時のまとめを行う。</li> <li>・本時の振り返りシートを記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆主体的に学習に取り組む態度&lt;振り返りシート&gt;</li> <li>学んだ言葉や手だてを用いて振り返る。</li> </ul>

## 英語科学習指導案（略案）

日 時 令和8年1月20日（火）  
対 象 第2学年5・6組 71名  
授業者 主任教諭 高橋千尋  
主任教諭 嶋村学人  
主幹教諭 佐藤恵美  
会 場 4階 2年6組教室  
4階 2年5組教室  
6階 多目的室

1 単元名 Unit 6-3 *『NEW HORIZON English Course 2』* (東京書籍)

2 単元の目標

- ・複数のものを比較して説明するための表現や文法を理解している。
- ・複数のものを比較しながら説明することができる。
- ・自分の好みや状況に関する判断を相手に伝えようと努めている。

3 研究主題「主体的に学びに取り組む生徒の育成」の実現に向けて

【Aグループ：主体的な学びを促すための導入、問い合わせを工夫する】

(1) 日常の学習活動の中で行っている工夫

B I N G Oで既習語を扱い、楽しみながら意味や発音を反復する機会を確保している。練習問題や会話練習は、具体的な場面と表現の妥当性を意識して課題を設定している。

(2) 本時の工夫

生徒の興味・関心を引く問い合わせから授業をスタートさせ、生徒の「英語を使いたい」「英語で話したい」という想いを引き出す。さらに、反復練習を行い英語で話すことに自信をもたせ主体的なコミュニケーション活動となることを目指す。

4 本時（全16時間中の第7時）

(1) 本時の目標

複数のものの中から比較しながら、自分の好きなものを伝えることができる。

(2) 本時の展開 ※太字部分は各テーマに沿った工夫・手だて

時間	○学習活動等（生徒）	○指導・援助（教員） ◆評価<方法>
導入 15分	○ウォームアップ（あいさつ、B I N G O）に取り組む。	○英語使用の雰囲気をつくる。 ○生徒の発音の誤りは、教員が正しく発音することによって自分自身で気付かせる。

Goal : Tell and ask your classmates what you like.

	<p>○Interaction (聞く・話す)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Unit 6-3 の導入として、教員の【先生達の好きなものについて】の問い合わせを聞き、答える。</li> </ul>	<p>○画像を用いて関心を喚起させ理解を深めさせる。</p> <p>○後の活動で活用できる表現を提示し活用させる。</p>
展開 27分	<p>○Practice／Activity(練習・活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 教員の後について英文を発音する。</li> <li>• 日本語や絵を手掛かりに英文を発音する。</li> <li>• 複数の選択肢の中から自分の好きなものと理由を英語で説明する。</li> </ul> <p>○Reading texts (読む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 教員の音読を聞きながら、プリント左側の英文を読む。</li> <li>• 設問に英語で答える。</li> </ul>	<p>○テンポよく活動を進めさせる。</p> <p>○「好きなもの」だけでなく、その理由まで述べさせる。</p> <p>○反復練習した文法を基に、自分の意見を述べさせる。</p> <p>○必要に応じて日本語も用いさせ、理解を確かめさせる。</p>
まとめ 8分	<p>○Summary (まとめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の考えをプリントに記入する。</li> </ul>	<p>○生徒を指名して以下の質問に即興で答えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Which do you like better, A or B?</li> <li>• What do you like the best?</li> </ul> <p>◆思考・判断&lt;観察/スピーキングテスト&gt;</p> <p>自分の好きなものと理由を口頭で説明することができるかを確認する。</p> <p>○問い合わせを提示し、自分の考えをプリントに記入させる。</p>